



無料レポート

子どもの国語力を 上げる方法

個別指導 LOGIQUE



■ はじめに

はじめまして。

この度は当塾の無料小冊子をダウンロードいただきありがとうございます。

私は大分と別府で国語専門の個別指導塾をしております戸高と申します。

このレポートを読んでいるということは、あなたのお子さんは今、国語の点数が
上がらずに悩んでいるはずです。

なぜお子さんの国語の力はいつまで経ってもつかないのでしょうか。その理由
が知りたいのなら、国語の勉強をしたあと、問いかけてみてください。

「今の時間で、自分はいったい何を身につけたのだろう」と。

算数や数学なら、「体積の求め方を身につけた」「方程式の計算の方法を身に着けた」
英語なら「過去形がわかった」「関係代名詞がわかった」などと言えると思
います。

しかし、国語はどうでしょうか。「〇〇がわかった」と何かを学んだという実感
があるでしょうか。もしないのであれば、それはなぜでしょうか。

それは「国語力」というものが教える人間も教わる人間もよくわかっていないか
らです。残念ながら今の学校の国語の授業は正確には「道徳」の時間であり、「文
学の鑑賞」になっているのです。そして、学校のテスト対策もただノートやワー
クの暗記になってしまっています。だから、国語で何を教えているのか、自分
でもよくわかっていないという方も多いと思います。学校や塾での国語の授業が
終わったあと先生に次のように聞いてみてください。

「先生、今日の国語は何を勉強したのですか」

この質問にしっかりと答えることができるだけでも授業に目的意識をもって臨んでいる優れた国語の講師（教師）だと言えます。しかし、おそらくそうした方は多くないでしょう。

「国語力」はよく「読解力」ともいわれますが、そもそも「読解力」とは何なのでしょう。

それは私たちが普段、どのように文章を「読み」「聞き」「書く」のかを考えればおのずと答えが分かります。

私たちが何かを整理して誰かに伝えるときのことを考えてみてください。おそらく、次のどれかを選ぶはずで

- ①まとめたり、分けたりして伝える。
- ②比べながら具体例などをつかって伝える。
- ③順序よく伝える。

いかがでしょうか。たったこれだけなのです。

この3つの能力を鍛えることで、ことばを使って相手に上手に伝えることができるようになるのです。この3つの力はまとめると「論理的思考力」となります。

つまり、私たちは「論理的思考力」によって文章による意思伝達を行っているのです。ですから、国語で点をとりたいと思っている皆さんは「読解力」というあいまいな力ではなく、「論理的思考力」を身につけなければいけません。

このレポートでは「論理的思考力」の「3つの力」を紹介します。どれも形のあたる技術です。一度身につけば、様々な場面で利用することができます。

今日は「〇〇ができるようになった」

そのようにはっきりと言える「本当の国語」の勉強を始めましょう。

■ 子どもの国語力を伸ばす論理的思考力

ここで、あらためて「論理的思考力」の定義をしておきます。「論理的思考力」とは、「バラバラの考えや言葉を整理し、それを的確に相手に伝える能力」です。

少し話は変わりますが、実は私は初めて勤めていた塾でも国語を教えていました。その時の私はその塾のカリキュラムにしたがって、授業をしていましたが、なかなか生徒の国語の成績は上がりませんでした。

原因は明らかでした。

問題を解いて答え合わせをしているだけで、授業が終わっていたからです。

当然、私もなんとかしたいと思っていましたが、ただの新人講師であったその当時の私にはカリキュラムを変える権限があるはずもなく、授業の合間に少しずつテクニックを教えたり、オリジナルのプリントを配ったりすることが精いっぱいでした。

それでも生徒たちからは

「先生のお蔭で国語がわかった」

と言ってもらえることが多くありました。しかし、私自身はもっと自由に国語を教えたいと強く思うようになっていました。

数年後、私はその当時知り合った先生に誘われて、その先生が開校した塾に移りました。その塾では国語のカリキュラムを全て私にまかせてくれるということがとても魅力的だったからです。私を誘ってくださったことを今でも感謝していますし、実は今もその塾とは交流があります。

さて、そこで自由に国語を教えることができるようになった私は、国語で一番重要だと考えていた、

①筆者の意見をすばやく読み取り、文章をまとめて伝える方法

②相手にわかりやすいように順序良く伝える方法

について授業をしていきました。①は簡単に言うと「文章を要約する力」です。

②の順序よく伝えるというのは「因果関係力」です。

「読解」というのは他人が書いた文章を読み、再構成することです。長い文章を読んで、

「この人が言いたいのは要するに～ことだよ」

とまとめることができれば、きちんと読めているということです。

さらに、それを文章で指定字数以内にきれいにまとめることができれば国語の記述問題は解けるわけです。

そのために私が考えた手段は「**100字要約**」というものでした。

この「100字要約」というものを簡単にご紹介すると、入試問題などの文章を読ませて、筆者の意見が書かれているところに線を引き、それをまとめて100字以内にするというものです。

もちろん、大事なところに線を引きなさいといっても、最初はなかなかできません。子どもたちは文章のどこが大事なのかわかりません。ですから、どういうところが大事なところなのかを見つける技術をまず授業で教えていったわけです。それができるようになったら、線を引いた大事な部分を合体させてまとめるトレーニングを続けました。

非常に地味で、頭を使うトレーニングですので、子どもたちはみんな非常に嫌がります。何しろ前で先生が解説しているだけの授業と比べたらとても疲れますし、彼らはみんな文章を書くことが苦手ですから。

しかし、疲れるということは、それだけ彼らの脳に刺激を与えているということです。実際、そうしたところ、夏期講習の期間だけで国語の点数が大幅にアップした生徒が続出したのです。

その中の生徒で、特に印象深いKくんのケースをご紹介します。

Kくんの夏休み前の成績 23点（50点満点中）



Kくんの夏休み後の成績 38点（50点満点中）

実は彼は中3の夏休み前まで国語が一番苦手な教科でした。それが一気に伸びて、一番点数をとれる科目になっていたのです。素晴らしい成果ですね。

しかし、どうしても志望校合格ラインである40点を越えることができませんでした。特に作文が苦手なようで、

「作文がいつも途中で止まってしまって時間が足りなくなる」

という悩みを抱えていました。

実は高校入試だと100字～200字程度の課題作文があります。しかもどの都道府県でも条件作文は5点以上の高得点問題で、それを正解しないと9割はとれません。

私としてもなんとかしなければならぬと対策を考えました。Kくんはこの時

すでに文章をまとめる力も文章構成力もかなりついており、弱点は書く内容はわかっているけれど、字数が足りない点でした。ですから、内容を増やすための作文の型である「比べて書く」技術を教えたところ、すぐに作文で満点をとるようになりました。こうしてKくんは国語の点数が安定し、2学期の中盤以降は他の教科の勉強に集中できるようになったのです。

Kくんの結果はまさに私の狙い通りでした。さらに言うと、実はこの「3つの力」を身につけることは、単に国語の成績を上げるだけに教えたわけではなかったのです。Kくんが言うには、

「国語の解き方が分かってから、理科とか社会の記述も書けるようになったし、数学の文章問題も何を聞かれているかが分かるようになった」

ということです。事実、Kくんは夏期講習以降、すごい勢いで成績を伸ばし、半ばあきらめていた地域でナンバー1の進学校に余裕で合格することができました。

いうまでもなく、彼が合格したのはほとんど毎日のように塾に来て自習をしたという彼自身の努力があつてのことです。しかし、彼の成績が驚異的に伸びたきっかけとして「論理的思考力」＝「3つの力」が身についたことが非常に大きなものだったということがKくんのことばからはっきりとわかります。

ちなみに彼に国語を教えたのは中3のときだけでしたが、彼が高2の時点で模試の偏差値は70を超えていました。

私はその後も毎年多くの生徒に国語を教えてきましたが、基本的にはこの「3つの力」を鍛えることだけを考えてきました。もちろん、問題を解くためのテクニックは他にもいろいろあります。

ですが、「国語力とは何か」と考えたとき私は迷うことなく、国語に大事な力は

「論理的思考力」だと答えるでしょう。そして、この方法でほとんど例外なく生徒たちの国語力が上がったことから、正しさは証明できていると思います。

大事なのは、この力は生まれ持ったセンスなどではなく、トレーニングで身につけることのできる技術だということです。国語は「論理」の科目です。正しい方法で練習を積み上げれば確実に身につけることができます。

ですから、学年や年齢に関係なく、国語の力は上がっていきます。その証拠に中1の時点でセンター試験国語の評論で8割を超えた生徒もいるくらいです。

これから、国語力がますます重要になってきます。なぜなら2020年の大学入試ではセンター試験が廃止され、マーク式ではなく記述の試験、そして小論文や面接が大学入試のスタンダードになろうとしているからです。そこでは自分の意見の論理的に述べ、記述する力が求められることは間違いありません。そして、その力は皆さんが大学生、社会人になったときに非常に役に立つことでしょう。英語力が大事だと叫ばれて久しいですが、では身につけた英語力で何を話せばいいのでしょうか。それを考えるのは国語力に他なりません。

私はこの力を身につけることで、皆さんに単純に国語の点数が上がるだけでなく、「論理的思考力」という武器を使って自分で勉強できる人間になってほしい。そして、身につけた知識や技能を使って自分の人生を切り開いてほしいと願っています。

それこそ私が、「国語専門」の塾を立ち上げ、その名を「LOGIQUE（ロジック＝論理）」と名付けた大きな理由なのです。

個別指導LOGIQUE 代表 戸高 一穂

国語・物理専門個別指導LOGIQUEの特徴

- 常に1対1の完全個別指導
- 電子黒板、バランスチェアなど充実した学習環境。
- 受験国語・物理指導に徹底的特化。
- 志望校の入試問題を教材として実践的得点力を向上。
- 文章読解・答案表現の両面から間違いをチェック。各生徒の傾向に応じて指導。
- スカイプ指導で遠方の方も指導可能。

<塾長> 戸高一穂 (とだか かずほ)

1980年生まれ。指導科目は小・中学生全科目、高校生は現代文・古文・漢文・物理・数学。大分市の大手進学塾において1年目から上野丘の生徒を対象とした教室の教室責任者に抜擢される。その後、別府市内の進学塾にて開校初年度から勤め、市内有数の進学塾となるまで力を注ぐ。全国の有力塾が集まり開かれたプレゼンセミナーにおいて優秀講師賞に選ばれる。受験指導をする中で国語の重要性を強く感じ、2015年4月「受験国語・物理専門個別指導LOGIQUE」を別府市亀川の自宅にて開塾。2016年4月に大分校を開校。共著作に「高校受験全国実力派の塾長が語る100の学習法」(Ye 1 1 b o o k s)がある。11年間、岩田中学合格率100%継続中。

体験授業へのご招待

この度は当塾の無料レポート「子どもの国語力を伸ばす方法」を最後までご覧いただき、誠にありがとうございます。このレポートで語ったことを実際にどう指導しているのか、それは直接体験してみなければ分からないと思います。そこで、このレポートをご覧の方限定で、体験授業を実施しております。この機会にぜひご体験ください。

体験授業 募集要項

- ◆ 40分
- ◆ 100字要約のための7つの読解公式 他（内容はご希望に応じます）
- ◆ 小学5年生～高校3年生・大学受験生
- ◆ 受講料 3,000円

一度受講すれば劇的な改善につながる読解法則をお伝えします。体験ですので、他の費用は一切かかりません。受講後にしつこい勧誘は一切いたしませんので、「苦手な国語を何とかしたい！」と入塾をご検討の方、試してみたいとお考えの方はお気軽にお問い合わせください。その他の教科もご相談に応じます。

お申込み・お問い合わせは

050-3556-6431（14:00～22:00）土曜日休校

ウェブサイト(<http://kokugojyuku.com/>)のメールフォームからも受付をしております。